

機械器具（58）整形用機械器具  
一般医療機器 骨手術用器械 70962001

## HOMS 整復用器械 (HOMS 転子部ネイル用整復器セット)

### 【警告】

本手術器械は未滅菌のため、[保守・点検に係る事項]に定める方法で、使用前に必ず滅菌を行い、使用後は必ず洗浄・滅菌を行い、清潔に保管すること。

### 【禁忌・禁止】

[併用医療機器]

当製造販売業者製の骨折部固定内副子材料以外の骨接合手術に使用しないこと。[「相互作用」の項参照]

### 【形状・構造及び原理等】

#### 1. 組成

ステンレススチール，チタン合金，PF

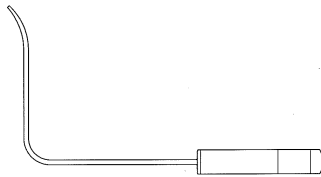
#### 2. 形状・構造・原理

本品は大腿骨転子部骨折等の骨接合手術に用いる手動式手術用器械であり、骨折部の整復を行います。

尚、本手術器械の製品名、カタログ番号については、包装表示ラベル又は製品本体に記載されていますのでご確認ください。

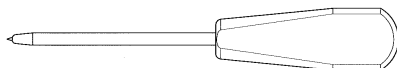
##### □ Cat. No. HS01-1640

製品名：大腿骨整復器（L）



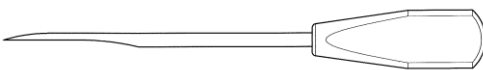
##### □ Cat. No. HS01-1680

製品名：大転子整復ロッド



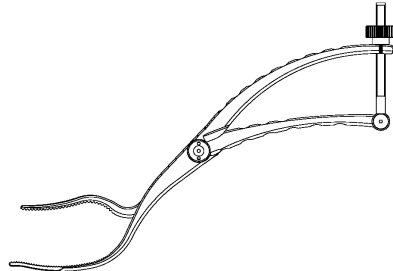
##### □ Cat. No. HS29-1000

製品名：転子部骨折用リダクションロッド



##### □ Cat. No. HS29-1500

製品名：大腿骨転子部骨把持鉗子 2



### 【使用目的又は効果】

骨接合手術等の骨手術に用いる手術器械をいう。手動式のものに限る。本品は再使用可能である。

### 【使用方法等】

#### 1. 使用前

本手術器械は未滅菌のため、手術前に予め [保守・点検に係る事項] に示す条件にて滅菌を施して下さい。

#### 2. 使用時（使用例）

基本的な手術手技は関連する添付文書を必ずご参照下さい。

##### 2-1. 大腿骨整復器（L）使用例

- 1) 前方突に転位した近位骨片の内側へ大腿骨整復器（L）の先端部を設置し、後方へ押さえ込むことにより、骨折部の整復を行います。（図 1）

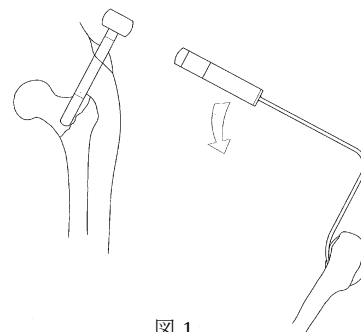


図 1

##### 2-2. 大転子整復ロッド使用例

- 1) 外側大転子部に整復ロッドの先端部を押し当て、整復します。（図 2）

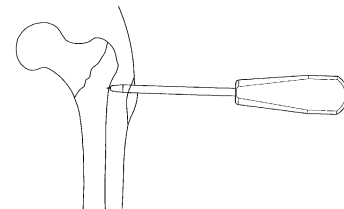


図 2

##### 2-3. 転子部骨折用リダクションロッド使用例

- 1) リダクションロッドの先端を前方から骨折部に挿入します。（図 3-1）
- 2) 骨折部を髓外型に組み換え、必要に応じ 2.5 ガイドワイヤーを刺入し仮固定を行います。（図 3-2）  
本器具の取り外し後、刺入されたガイドワイヤーを介して再度整復操作を行う場合は、導入の際にガイドワイヤー後端部が本器具より突出するので、十分に注意して下さい。



図 3-1

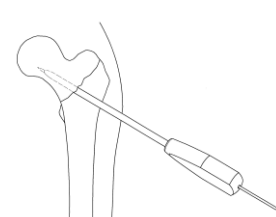


図 3-2

## 2.4. 大腿骨転子部骨把持鉗子使用例

- 1) 鉗子の支点部緑色の部分を押し込みながら、鉗子を互いにスライドさせ、鉗子を分離します。先端が二股形状の物が後方鉗子、もう一方が前方鉗子となります。（図4）

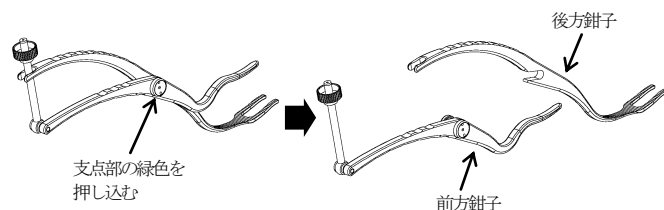


図4

- 2) 大転子頂部の皮切より後方鉗子を挿入し、転子部後方骨片の整復を行います。（図5）

鉗子挿入による周辺組織の損傷及び骨折部転位の開大に注意して下さい。

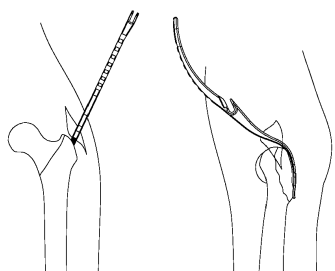


図5

- 3) 後方鉗子で整復位を保持し、前方鉗子を後方鉗子に沿わせるようスライドさせ、セルフロックさせます（図6）。そして、両鉗子で大腿骨転子部を挟持します。（図7）

この際鉗子先端が骨折部に入りこまないよう注意して下さい。

整復位保持のため、後端側のネジ部ナットを締め付け固定します。（図8）骨片の圧壊及び術中の鉗子のずれを防ぐため、ネジ部ナットは適切に締め付けて下さい。

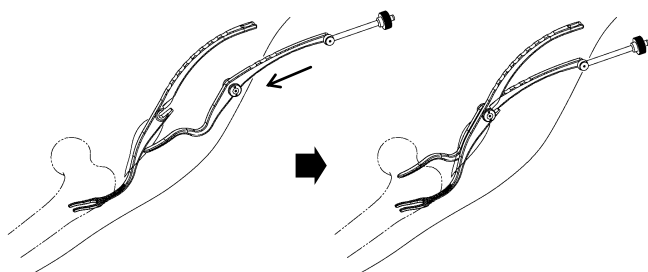


図6

図7

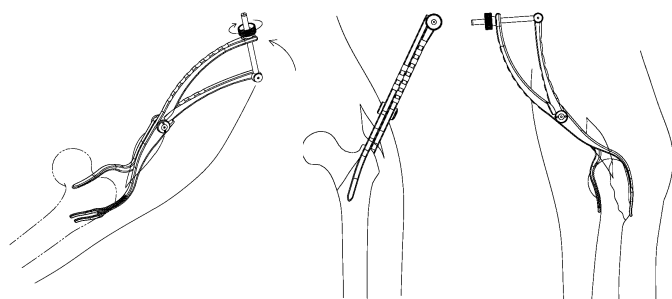


図8

- 4) 鉗子での整復位保持状態でエントリーホールの開窓を行い、ネイルを挿入します。（図9）

エントリーホール開窓やネイル挿入などの手術手技中、鉗子が脱落しないよう注意して取り扱って下さい。

ネイル挿入の際は鉗子がターゲットデバイスと干渉しないよう注意して下さい。鉗子の把持位置によっては、干渉し再転位に繋がる恐れがあります。

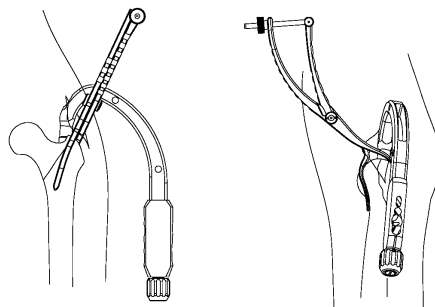


図9

## 3. 使用後

使用後は、水ですすぎを完全に行い、[保守・点検に係る事項]に定める滅菌方法にて滅菌を行います。

## 4. 使用方法等に関連する使用上の注意

- 1) 使用前に必要な手術器械が揃っているか確認して下さい。
- 2) 血管、神経、軟部組織等を傷つけないよう注意して下さい。
- 3) 破損を及ぼすような過剰な負荷をかけないよう、適切に使用して下さい。
- 4) 損傷、磨耗、曲がり等が見受けられる場合は、絶対に使用しないで下さい。  
[使用中に破損する恐れがあります。]
- 5) ガイドワイヤー等の穿孔器具が意図しない方向に進んで周囲の骨組織内に進入しないように、イメージインテンシファイヤー（X線透視）を用いて、穿孔器具の位置を頻繁に確認して下さい。
- 6) 骨片の粉砕及び骨質の状態に応じ、適切な骨把持を行って下さい。  
[整復位のずれ又は二次骨折を引き起こす恐れがあります。]
- 7) 中空内に骨屑片が集積しないよう、中空構造を持つ器具はこれを術中に除去しながら使用して下さい。
- 8) 器具の先端部を絶対にベンディングしないで下さい。  
[ベンディングにより、使用中に破損する恐れがあります。]
- 9) 整復する際は、専用の手術器具を正しく接続するとともに、周囲の神経や血管を損傷させないよう、イメージインテンシファイヤー（X線透視）で確認しながら、慎重に行ってください。  
[無理な整復操作により、二次骨折を引き起こす恐れや、器具先端部が屈曲又は破損する恐れがあります。]
- 10) ネイル及びラグスクリューの挿入手技にあたっては、イメージインテンシファイヤー（X線透視）で確認しながら、器具との干渉に十分に注意して下さい。

## 【使用上の注意】

### 1. 重要な基本的注意

- 1) 摩擦やキズ、曲がり等が激しい器具は、破損する恐れがありますので絶対に使用しないで下さい。
- 2) 使用後は隙間部分、内管及び中空部分や複雑な構造を有する部分に血塊等が残らないよう速やかに洗浄後滅菌して下さい。（「保守・点検に係る事項」参照）  
[嵌合部等にある血塊や異物を除去しきれない恐れがあります。]

### 2. 相互作用（他の医療機器等との併用に関すること）

- 1) 併用禁忌（併用しないこと）

| 医療機器の名称等                  | 臨床症状・処置方法                   | 機序・危険因子                      |
|---------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 当製造販売業者製（※1）以外の骨折部固定内副子材料 | インプラントの緩み、破損の危険性が高まる恐れがある。  | インプラントが適切に埋入できないため固定力等が不足する。 |
| 当製造販売業者製以外の手術用機械器具        | 手術用機械器具の不具合による危険性が高まる恐れがある。 | 手術用機械器具の操作が正しく機能しない。         |

（※1） HAI ネイルシステム（医療機器承認番号：21800BZZ10084000）、IPT ネイルシステム（医療機器承認番号：21600BZZ00127A01）、HAI コンプレッションヒップスクリューシステム（医療機器承認番号：21800BZZ10083000）及びTES ネイルシステム（医療機器承認番号：22700BZX00086000）

3. 不具合・有害事象

本製品の使用において、患者の状態、骨折部の形態及び骨癒合の状態などにより次のような不具合・有害事象がまれに現れることがあるので、異常が認められた場合は直ちに適切な処置を施して下さい。

- 1) 重大な不具合
  - ・製品の破損、破損片の体内遺残
- 2) 重大な有害事象
  - ・偽関節、変形骨癒合、再骨折（術中／術後）
  - ・二次骨折
  - ・カットアウト、インプラントの脱転
  - ・感染症、血栓症
  - ・骨の短縮、骨壊死、骨密度の低下
  - ・金属アレルギー、異物アレルギー
  - ・手術における神経的損傷、血管損傷及び穿孔時発熱障害
- 3) その他の不具合
  - ・挿入／抜去時の製品／器具の破損
  - ・術後のインプラントの緩み、Z-effect
- 4) その他の有害事象
  - ・痛みや不快感、異物感
  - ・骨癒合不全
  - ・血行再生障害
  - ・挿入／抜去時における破損器具の体内遺残

4. 高齢者への適用

一般的に高齢者は骨量・骨質が十分でないことが多いので、本製品の使用は慎重に行い、術後の経過にも十分注意して下さい。

【保管方法及び有効期間等】

- 1) 保管方法  
直射日光及び高温多湿を避け保管して下さい。

【保守・点検に係る事項】

【使用者による保守点検事項】

1. 使用前

- 1) 本手術器械は未滅菌のため、手術前に予め次に示す条件にて滅菌を施して下さい。
  - ・滅菌方法及び滅菌条件（オートクレーブ滅菌）

| 熱源      | 水蒸気     |         |
|---------|---------|---------|
| 処 理 圧 力 | 118 kPa | 196 kPa |
| 処 理 温 度 | 121 ℃   | 132 ℃   |
| 処 理 時 間 | 20 分以上  | 5～10 分  |

- 2) 製品を使用する前に摩耗、キズ、割れ、有害なバリ、錆、接合の不良等がないか、外観検査を実施して下さい。

2. 使用後

- 1) 使用後は、速やかに洗浄を行い血塊等を除去し、使用前の欄に示す「滅菌方法及び滅菌条件」で滅菌を行い保管して下さい。
- 2) 洗浄中又は洗浄後の製品を放置すると錆び等が発生する恐れがありますので必ずゆみに放置しないで下さい。
- 3) 洗浄剤は、医療用中性洗剤等の専用の洗剤を用い、適正な濃度で使用して下さい。（洗剤の使用説明を参照して下さい。）
- 4) 強アルカリ／強酸性洗剤・消毒剤は器具を腐食させる恐れがあるので、使用を避けて下さい。やむを得ず使用する際は、製品の状態を確認し腐食等が発生しないよう洗浄して下さい。
- 5) 洗浄の際、製品の表面等にキズがつかないようにブラシ、スポンジ等を使用し、金属製たわし、クレンザー（磨き粉）等の使用は避けて下さい。
- 6) 隙間部分や中空穴を有する製品はブラシ等で隙間部分や中空穴部分を入念に洗浄し異物を除去し、洗浄後の製品に異物がないことを十分確認して下さい。
- 7) 可動部を有するものは可動部分を操作しながら洗浄して下さい。
- 8) 分解可能なもの或いは組み合わせて使用するものは最小単位まで分解し洗浄を行って下さい。

- 9) ブラシ等で血塊等を除去できない場合は隙間部分等を血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等を用いて洗浄後、超音波洗浄機を用いて洗浄し、滅菌して下さい。特に隙間部分は異物が残りやすいので、異物がないことを十分確認して下さい。
- 10) 血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等の薬剤を使用する場合は取扱説明書を参照の上使用して下さい。
- 11) 超音波洗浄機を使用する場合は、取扱説明書を参照の上使用し、製品に異物等がなくなるまで洗浄して下さい。
- 12) 超音波洗浄機を使用の際は、ドリル等の刃物が接触し、キズ等が発生しないよう注意して洗浄して下さい。
- 13) 合成樹脂が使用されている製品に高圧蒸気滅菌を行う場合、合成樹脂部分が滅菌トレー又は滅菌用金網容器等の金属部分に直接触れないようにして下さい。
- 14) 洗浄、滅菌後可動部分を有する製品がスムーズに可動しない場合は、必要に応じ水溶性潤滑剤または流動パラフィンを塗布して下さい。水溶性潤滑剤又は流動パラフィンを使用する場合は取扱説明書を参照の上使用して下さい。
- 15) 洗浄後は、水ですすぎを完全に行い、腐食防止のために、直ちに乾燥させて下さい。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

株式会社 ホムズ技研  
〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-352  
電話番号 0266-76-5881

製造業者

株式会社 ホムズ技研